

町長室から

「北海道

浦幌町で過ごす自然のある生活展」

を東京駅の丸の内南口前のJPTタワーKITEE(きつて)の地下空間で行いました。

浦幌町からのスタッフは職員や浦幌スタイル、地域おこし協力隊の皆さんでしたが、高校生も2人が参加していただきました。

KITEEは東京駅の地下と連結しており、人の通りも多い場所でしたが、「子どもブース」(子育て教育+自然+手作り著作体験)「浦幌町PRブース」(観光・交流・自然)「仕事ブース」(田舎での働き方提案)「ハマナスブース」(町の花を産品に)の4つのブースに分かれての浦幌町のPR活動を展開しました。

この場所で1つの町が単独開催するのは珍しいらしく、実は入場者をどれくらい呼び込めるかと心配もしていました。しかし、案に相違して東京在住の浦幌町出身者や東京からほろ会の山田会長など関係者なども多数来ていただきましたが、それ以上にハマナス化粧品を試作コーナーや子どもたちのマイ著作コーナーなど

各ブースとコーナーには一般の人があふれて順番待ちの状態であり、会場担当者からもこれだけ集まるのは珍しいですよと感心されました。

北海道、十勝は知名度がありますが、浦幌町の名前を聞いた事のある人はほとんどいないのが実情です。

これらの活動で浦幌町に関心を持ち、行ってみたいと言ってくれた人達がいたことは少しでも移住定住に繋がる事を期待するものです。

今年から学校と家庭、地域とともに智慧を出し合い学校運営に意見を反映させることで、一緒に協議しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校」作りを進めるためのコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が努力義務化されましたが、これからコミュニティ・スクールの設置を考えている自治体向けの文部科学省の事例集やパンフレットに浦幌町の取り組みが全面的に大きく紹介されています。

平成24年から小中一貫教育に取り組み、更に平成27年からコミュニティ・スクールを取

り入れて、子供達がどう育ってほしいのか熟議を通じてビジョンを共有してアイデアを出し合い協働の活動の結果、子供達が浦幌の魅力に触れ、地域への愛着や誇りが芽生え、ふるさとへの意識が育まれた結果、子供達が積極的に札幌や函館で浦幌町の魅力を発信する行動を取るといふ成果に結びついたという評価がなされています。

浦幌町が全国的な注目を集める事になりました。

これまでは平成27年に教育委員会に関する法律の改正があり、これまで教育委員は町長が任命し、議会の同意を得ますが、教育長は教育委員の中から教育委員会が任命する事になっていました。

しかし、法律の改正により町長が教育長を任命して、議会の同意を得るということに代わったのですが、現教育長の任期満了までは現行制度が継続されるとなっていました。

この度、教育長の任期が参りました事から、現教育長の久門氏を教育長に任命して3月議会で同意の承認をいただきました。

3年間の任期となりますが、これまでも久門氏は教育行政に取り組んでいたが、引き続きお願いするものです。

また、松田泰一教育委員長が新教育制度により、教育委員長制度がなくなるため退任される事になりました。

松田氏には平成9年から20年の長きに渡り教育委員として教育行政をつかさどっていただいた事に心から感謝と敬意を申し上げます。

山間道を走ると昨年の台風でなぎ倒された森林の跡がいやでも目に飛びこみます。

昨年は林野火災が多発しており、倒木した山は乾燥が進みますので、これから山菜採りに山に入る人達が増えることから、「林野火災予防対策協議会」も開催し、4月10日から5月20日までを「林野火災予防強化週間」としていますが、くれぐれも火の取り扱いには注意をしてもらいたいものです。

浦幌町長 水澤一廣